

第9回 未来の自分を発見しよう ~OGと考える「これが私の生きる道」~

「未来の自分を発見しよう」さまざまな分野で早稲女パワーを発揮される、本学OGに来校いただいで稲門女性ネットワーク(略称TWN)による現役女子学生へのキャリア支援イベントは、今回で9回を数えます。

TWNは、本学唯一の女性だけの稲門会であり、在学する幅広い学年層に、多様な女性の生き方のロールモデル像を膝を交えて肉声で伝え、「私の生きる道は?」と思い描く契機たる企画を立て、毎年、本学OGが一同に会してお話しいただく機会をもっています。

女性が自ら生きる道を拓いてきたありさま、その考え方が如実に感じられる場の提供で、参加者に気づきを与え続けてくださっています。

今回は、損害保険会社、地方公務員、通信会社、広告会社、出版社、IT企業と、現場の第一線でご活躍の6名のゲストスピーカーが、これから社会に出る後輩のため忌憚のない思いを語ってくださり、学部1年生から修士課程までの54名が、第1部パネルディスカッションと、OG各人を囲んでの第2部カジュアルトークに参加しました。



真摯に語ってくださるOGの話をも3時間傾聴し、熱気に包まれた本学学生会館キャリアセンターセミナールーム。男子学生の参加もありました。

開会に際し、白井由美キャリアセンター課長から、将来設計も含めた本学における就職支援の全体像が述べられ、女子学生に奨学金を贈ってくださるTWNへの謝意とともに、両立支援の進んだ企業の探し方、女子学生に知っておいてほしい総合職と一般職の違いについて、就職にあたって知っておくべき労働法の知識について等、就職や将来設計にあたっての要諦が示されました。

主催者を代表して、尾崎芙美子TWN幹事長から、パネルディスカッションを通して、「仕事に対する取り組み方」を聴き、フリーディスカッションにおいては、自身の生き方を探るために質問もして、意義ある時間にしてほしいと開会挨拶がありました。

第1部のパネルディスカッションでは、TWN山川裕美子幹事の進行で、会社や職種をどう決めたか? 仕事をしていくうえで大切にしているものは? 入社前後でギャップを感じるか? 転職を考えたことはある? /どのように転職をしたか? ワークライフバランスについて、制度や実態、ほんとうのところは? といった、キャリア形成や就職を考えるにあたって、そこを聞いておきたいという内容が質問され、6人のパネラーから率直な応答が続きました。

企業や役所の育児支援制度については、育児休業取得率は高く、その期間が2年まで延長もできる、育児取得明けの職場復帰が可能であり、育児中の短時間労働制度が選択できる、男性の育児取得は多くはないが身近に取得者が存在する等、女性の出産後の働き方に展望が見いだせる制度の充実ぶりの一端が示されました。さらに、親の介護に伴う働き方の変化をロールモデルとして示していきたいという、育児とともに、仕事をするうえで避けて通れない介護問題にまで示唆がありました。一方、裁量労働制なので働き方が自分でつくっていき、男性が子どもの保育園の送迎や育児取得もされている等、恵まれた職場環境についての現場の声を聴くことができ、また、育児には実家の親の協力を多く得ているという生の声もあり、熱心にメモをとる女子学生の姿が多くありました。

第1部は、女性は「ライフイベント」によって選択を迫られることも多いが、なんとかするんだという気概があれば切り拓いていけるものだ、これぞと思う自分の仕事を見いだすには、「自分のもっているカラー」が生かせる場を探すとよいのではないかという、TWN山川幹事のメッセージで結ばれました。

続く、第2部のフリーディスカッションでは、各OGを学生が囲んでお話を伺い問いかける25分間のセッションが3回行われました。

多忙な出版社の仕事を続けるモチベーションは？ 家族や子どもから仕事への理解は得られるか？ 適性をどう判断すればいいか？ 学生時代に感性を磨くには何をすればいいか？ ベンチャー企業での苦労は？ 結婚願望は？ やり甲斐は何か？ 自分に合う仕事をみつけるには？ 転職をするにあたり軸にしたことは？ といった、会社説明会では聴くことができないであろう、率直で真摯な質問が飛び交う1時間半でした。

「若いうちにストレスと闘っておくとストレス耐性が培われる」「働いているお母さんならではの背中
の見せ方があると思ひ、子どもと正直に向きあっている」「無駄になる経験はなく、後からすべてが生きてくるので、学生時代、いろいろな経験をしてほしい」「エンドユーザーを考える仕事はやり甲斐が大きい」「提案していくにはチームワーク重視だが、開拓していくのは自分ひとりであり、プロデュース能力と発想力の双方が必要だ」「“かわいげがある人”が最終的に選ばれる人材ではないか、就職活動においては、堅苦しくなく、いつもの自分が出せるといい」といった、経験に裏打ちされた、示唆深いメッセージが伝えられました。

終了後、「生の声が聴けたことで『働く女性』像がクリアになった」、「どの業界で働いている方も『楽しい』と思えることがあるから働いているのだなと思った。その『楽しさ』というのは、自己分析や業界研究をしていくなかで見つけるものだと思うので、あと少し、自分と向き合って考えたい」、「ひと口に仕事と家庭の両立といっても、いろいろな働き方・両立のしかたがあると感じた。自分の価値観に合った働き方を実現できる会社を見つける重要性を実感した」など、多くの声が寄せられました。



◇TWN稲門女性ネットワークとは◇

1995年設立、早稲田大学で唯一、女性だけの稲門会です。

(1) 現役女子学生への奨学金贈呈

19年間で、留学生を含めて41名に1230万円を超える奨学金が贈呈されています。

(2) 現役女子学生へのキャリア支援活動

(3) 留学生支援活動

(4) 早稲田大学出身女性の交流活動

以上の4本を活動の目的とし、現役女子学生にエールを送り続けてくださっています。

第2部は、この人に話を聴きたいというOGに、自身の疑問や質問をじかに伝え、熱のある応えが得られた1時間半のセッションでした。